第 23 回 新型コロナウイルス(公衆衛生編)（4 月 24 日金曜日）

こんにちは。
長崎大学人、河野茂です。

今回からの 3 通のメールは金子聰教授からの情報です。

新型コロナウイルス感染症：公衆衛生と市民の協力

新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、我が国においても保健医療のみならず、
経済、文化、人々の暮らしへと影響を及ぼしています。

これまで例を見ない規模での感染拡大となり、我々の生活感や価値観など
社会システムも含め、いろいろなことが変わるきっかけになるかもしれません。

そのような状況で、イタリアのクルーズ船「コスタ・アトランチカ」で、今日現在で
48 人の新型コロナウイルス陽性が確認されました。

感染の拡大を食い止めることが出来るか？
これから 3 回にわたり、新型コロナウイルスについて、人々、地域、市民の集団として
の 健康を守るという公衆衛生的立場から話を進めたいと思います。

まず、今回の新型コロナウイルス感染症の状況を、「草むら」と「火の粉」のたとえを
使って 説明します。

草むらが我々の住んでいる地域と仮定します。
火の広がりが新型コロナウイルス感染症の拡大とします。

どうやって、火災の拡大を食い止めるか？

自分たちの地域を守るか？そのような事を少し、考えてもらえればと思います。

ある草むらの横にある建物から火の手が上がりました。草むらの住民は、
草むらに火の粉が来ないように、来てもすぐ消せるように準備します。

草むらには、火の粉（飛び火）が飛んできます。火の粉の一部は、
そのまま消えるものもあるでしょうが、一部は、草に燃え移り、
火が広がるところも出始めます。

草むらの住民は、燃え移った火を消すとともに、その周囲に火が広がっていないかを
確認し、火が広がっていれば、消火に当たります。

飛び火がやってくる数が少なければ、住民はなんとか火を消すことができます。
しかし、降り注ぐ火の粉が増え出すと完全に見つけ出すことが難しくなります。

気づかないうちに、周囲に燃え移り、気づいたときには、大きな炎があがっています。
これが、「クラスター（集団）」です。

なんとか、その火も無事に消すことが出来ました。
このように、火種を見つけ、火災が広がる前に適宜、消火することができれば、
火事がさらに広がることはありません。これが、現在のクラスター対策の基本です。

たとえ話の火の粉は見えることが前提ですが、新型コロナの場合、この飛び火は、
見えません。さらに、どこに火の粉がついているかも分かりません。

そこで見逃しが発生するだけではなく、気づかないうちに住民ひとりひとりに付着し、
知らないまま、運び屋となり、火の粉はまき散らされる。
そして、気がつかないうちに、燃え広がる。

そして、ある程度広がってしまうと、火を消すのが大変です。
手が付けられません。

草むらを守るため、草むら全体を覆う鉄板を載せて火の延焼を抑えることにします。
これが、都市封鎖（ロックダウン）です。

しかし、日本の場合、大きな鉄板がないので、小さな鉄板を当てることで対策を
取っています。

しかし、鉄板をかぶせると草に日が当たらない。そうすると草は成長できません。
いつ鉄板を外すか？外にはまだ火が残っている。難しい選択です。

これの問題がこれから起きてきます。
草むら（地域）を守るためには、火の粉から草むらを守ることが重要です。
いま、火の手はあちらこちらであがっています。

一番重要な事は、火の粉を呼び込まない・持ち込まないことです。

自分は大丈夫と思いつつ、火の粉を運んでいる可能性があります。
アメリカのサンタクララの調査では、実際に新型コロナ陽性と診断された
50 倍もの人が無症状で感染している可能性があるとの報告がなされています。

ひとりひとりが気をつけて、行動することが今は一番大事です。

次回は、世界の状況について、少し話をします。